

インド、アルナーチャル・プラデーシュ州における 野生食用・薬用植物利用の特徴

小坂康之¹⁾、Bhaskar Saikia²⁾、Tasong Mingki²⁾、Hui Tag²⁾、
Tomo Riba³⁾、安藤和雄⁴⁾、奥宮清人¹⁾

1) 総合地球環境学研究所、2) ラジブ・ガンディー大学植物学科、
3) ラジブ・ガンディー大学地理学科、4) 京都大学東南アジア研究所

アルナーチャル・プラデーシュ州のアディ族、アパタニ族、ニシ族、メンバ族の野生食用・薬用植物利用に関する文献を総合すると、95科234属375種の利用が確認された。そのうち、食用植物は249種、薬用植物は220種、食用と薬用の両方を目的とした種は79種であり、野生植物の食用としての摂取が同時に住民の健康維持に寄与している可能性が推察された。薬用植物の薬効または適用する病名は79つが挙げられた。薬用植物の中では、胃痛に用いる種が最も多く46種、ついで傷寒・血液凝固を目的とする種が40種、赤痢・血便が39種、皮膚病・発疹・膿瘍が34種であった。アディ族とニシ族では下痢や赤痢・血便に用いる薬用植物の種数が多かったが、アパタニ族とメンバ族では少なかったことから、標高2000m前後の冷涼な高地では下痢や赤痢・血便の症状が少ないことが推察された。実際、アルナーチャルの高地で行われた医学検診では、下痢症を訴える受診者は非常に少なかった。一方、同検診では体の痛みや頭痛、不眠の多いことが認められたが、本稿で分析の対象とした先行研究の結果では、低地住民であるアディ族とニシ族の方が高地住民よりもこれらの疾病に効くとされる薬用植物を多く認識していた。今後、医学と植物学の研究者の共同調査より、身近な野生食用・薬用植物の摂取とその効用を分析することは、アルナーチャルの住民の健康維持をはかる上で重要だと考えられた。

はじめに

インド北東部のアルナーチャル・プラデーシュ州（以下、アルナーチャル）は、ヒマラヤ山脈の東端に位置する。アルナーチャルの標高2000m前後に広がる森林は、西日本からヒマラヤ中部まで続く照葉樹林帯に含まれ、豊かな植物資源の存在が指摘されてきた^{1,2)}。

アルナーチャルの住民にとって、野生の食用・薬用植物は欠かせない植物資源である。森林や農耕地に生育するさまざまな山菜や果実は、日常的に食料として利用される³⁾。またアルナーチャルの農山村では西洋医学の医療施設へのアクセスが困難な場合が多く、現在でも在来医療が広く行われ、利用される薬用植物は約500種にのぼる⁴⁾。

そこで本稿は、アルナーチャルで行われてきた有用植物の研究のうち、野生の食用・薬用植物利用に焦点を当てて文献を概観し、アルナーチャルの特徴を指摘するとともに、今後の研究課題を挙げることを目的とする。

調査地と方法

まずアルナーチャルの植生と食用・薬用植物に関する文献を収集し概観した。次に、野生の食用・薬用植物利用が詳細に報告されているアディ族、アパタニ族、ニシ族、メンバ族の文献⁴⁻¹³⁾を選択し、利用の特徴を比較した。その際、文献に記載された学名を、Biodiversity InternationalのTaxonomic Nomenclature Checker (<http://pgrdoc.biodiversity.org/taxcheck/grin/>)、Calalogue of life: 2010 Annual Checklist (<http://www.catalogueoflife.org/annual-checklist/2010/search/all>)、eFloras.org (<http://www.efloras.org/>)で確認し、誤記やシノニムを訂正した。そして筆者の現地調査で得られた情報を加え、アルナーチャルの野生食用・薬用植物利用の特徴をまとめた。また、2009年と2010年にアルナーチャルのウエスト・カメン県で行われた医学調査の結果（奥宮、未発表）を参照し、薬用植物利用と住民の疾病との関係を考察した。

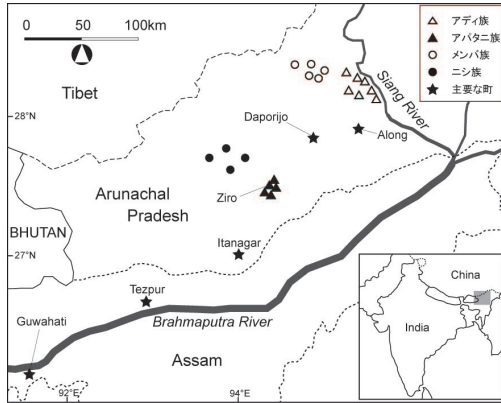


図1 アルナーチャル・プラデーシュ州における野生食用・薬用植物に関する先行研究⁴⁻¹³⁾の調査地の位置。

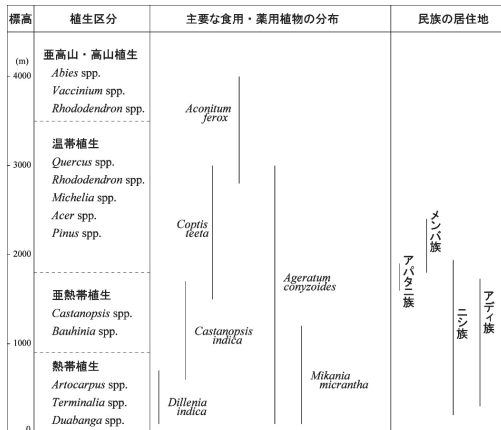


図2 アルナーチャル・プラデーシュ州の植生、主要な野生食用・薬用植物、民族の居住地の垂直分布。

本稿で焦点を当てた上記の4つの民族に関する先行研究では、アディ族はウエスト・シアン県、アパタニ族はローワー・スパンシリ県、ニシ族はクルン・クメ県、メンバ族はアッパー・シアン県の村落が対象とされた（図1）。これら4つの民族はチベット・ビルマ語族に属する言語を話す。アディ族、アパタニ族、ニシ族はドニ・ポロと呼ばれる太陽と月の神を信仰するのに対し、メンバ族はチベット仏教を信仰する¹⁴⁾。それぞれの民族の居住する標高は異なり、アディ族とニシ族の村落は標高約300 mから1800 m近くまで分布するが、アパタニ族とメンバ族の村落は標高2000 m前後に位置する（図2）。

アルナーチャルの植生は、標高によって大きく4つに区分される。標高900 m以下が熱帯植生、900 mから1800 mまでが亜熱帯植生、1800 mから3500 mまでが温帯植生、3500 m以上が亜高山と高山植生である¹⁵⁾（図2）。そして焼畑や伐採、放牧などの人為の影響により、さまざまな代償植生が形成されている¹⁶⁾。

調査結果

文献調査⁴⁻¹³⁾の結果を総合すると、アディ族、アパタニ族、ニシ族、メンバ族によって利用される野生食用・薬用植物は、95科234属375種であった（付表）。付表では、食用植物の用途を5通り（表1）に、薬用植物の薬効または適用する病名を79通り（表2）に区分して記載した。合計375種の野生食用・薬用植物のうち、食用植物は249種、薬用植物は220種、食用と薬用の両方を目的とした種は79種であった（表3）。

筆者の現地調査での観察結果と合わせると、食

表1 アルナーチャル・プラデーシュ州の4つの民族によって利用される野生食用植物の用途。

略	食用の用途（英名）	食用の用途（和名）	アディ族	アパタニ族	ニシ族	メンバ族	全体
Fd	Food, Fruit, Spice, etc.	野菜、果実、香辛料 など	65	72	138	54	238
Fds	Substitute for staple food	主食の代用	1	0	0	2	3
Fdf	Subsidiary food during feminine	救荒食	1	0	0	1	2
Fdi	Ingredient of making Salt by Apatani tribe	アパタニ族による塩作 りの材料	0	10	0	0	10
Fdl	Ingredient of fermentation of liquor	酒の発酵の促進剤	5	1	3	1	6

表2 アルナーチャル・プラデーシュ州の4つの民族によって利用される野生薬用植物の薬効または適用する病名。

略	病名 (英名)	病名 (和名)	アディ族	アバタニ族	ニシ族	メンバ族	全体
Al	Allergy	アレルギー	0	0	1	0	1
Ant	Anthelmintic	駆虫薬	6	5	0	2	13
Ap	Aphrodisiac	媚薬	1	0	1	0	2
Ar	Abortifacient	墮胎薬	3	0	2	0	5
As	Asthma	喘息	2	1	1	0	3
Ast	Astringent	収斂剤	1	0	0	0	1
Bdl	Bone dislocation	脱臼	0	0	1	0	1
Bdp	Body pain & swell	体の痛み、腫れ	10	9	16	0	24
Bi	Burn injury	火傷	2	0	4	0	6
Bnf	Bone fracture	骨折	4	1	2	1	7
Br	Bronchial trouble	気管支炎	0	0	1	0	1
Bs	Burning sensation	灼熱感	0	2	2	0	2
Ccg	Chest congestion	胸部鬱血	2	0	0	0	2
Cg	Cough	咳	5	9	16	1	28
Ch	Cholera	コレラ	0	0	0	1	1
Cj	Conjunctivitis	結膜炎	1	5	3	0	5
Cl	Cold	風邪	2	6	7	1	12
Cp	Chicken pox	水疱瘡	6	0	0	0	6
Cs	Constipation, Purgative	便秘	10	6	7	0	18
Cx	Chest pain	胸痛	0	1	1	0	1
Dbt	Diabetes	糖尿病	2	0	1	0	2
Deb	Debility	衰弱	2	0	1	1	4
Dir	Diarrhea	下痢	18	2	5	1	23
Dl	Difficulty in delivery	難産	0	1	0	0	1
Dp	Preparation for delivery	安産、妊婦の痛み緩和	1	2	0	0	2
Dr	Dandruff	フケ症	1	0	0	0	1
Dy	Dysentery	赤痢、血便	18	8	21	3	39
Ea	Earache	耳痛	1	2	2	0	4
Er	Painful red eye	結膜炎とは別の目痛	2	3	5	0	6
Fl	flatulence	膨満	3	0	0	0	3
Fv	febrifuge, fever	解熱剤	6	5	14	2	20
Gc	Germicide	殺菌薬	0	2	0	0	2
Gl	Gallstone	胆石	1	0	0	0	1
Gr	Gonorrhea	淋病	1	0	0	0	1
Gt	Goiter	甲状腺腫	0	1	0	0	1
Gu	Gout	痛風	1	0	0	0	1
Ha	Headache	頭痛	7	6	13	1	17
Hb	High blood pressure, Hypertension	高血圧	4	0	2	1	5
Hd	Heart disease	心臓疾患	2	0	0	0	2
Hp	Hyperacidity	胃酸過多症	0	0	1	0	1
Hr	Health recovery after delivery	産後の体調回復	0	0	5	0	5
Ib	Insect bite	虫刺され	0	1	4	0	5
Id	Indigestion	消化不良	13	4	3	1	15
Ip	Impotency	強精剤	1	0	0	0	1
Ir	Relieving intoxication	酔いざまし	1	0	0	0	1
Jn	Jaundice	黄疸	3	0	2	1	4
La	Loss of appetite	食欲不振	1	5	6	0	12
Ld	Liver disorder	肝障害	5	3	1	0	7
Li	Increasing lactation	泌乳促進	1	0	0	0	1
Md	Madness	精神錯乱	1	1	1	0	1

略	病名（英名）	病名（和名）	アディ族	アパタニ族	ニシ族	メンバ族	全体
Me	Menstrual disorder	月経不順	0	0	2	0	2
Ml	Malaria	マラリア	3	3	8	2	12
Mt	Mental stress	精神的ストレス	1	0	0	0	1
Nb	Nose bleeding	鼻血	0	0	0	1	1
Nk	Nose blockade	鼻づまり	1	0	1	0	1
Ns	Nervine stimulation	神経刺激	0	0	0	1	1
Nt	Nerve tonic in child birth	出産時の気付け薬	0	0	0	1	1
Pl	Pile	痔疾	1	0	0	0	1
Pp	Pimple	にきび	0	0	1	1	2
Pr	Perspiration	発汗促進	1	0	0	0	1
Rh	Rheumatic pain	リウマチ	4	0	1	0	5
Rm	Religious medicine	悪霊払い、治癒祈願	3	0	0	3	6
Rw	Ringworm	白癬、タムシ	1	0	0	0	1
Sa	Stomachache, gastric	胃痛	20	14	26	6	46
Sb	Snake bite, scorpion sting	ヘビやサソリの毒消し	2	2	4	1	6
Sd	Skin disease, Itch, Eruption, Abscess	皮膚病、発疹、膿瘍	13	13	21	1	34
Sl	Sleeplessness, Insomnia	不眠	5	1	0	0	5
Sn	Sinusitis	副鼻腔炎	3	1	1	0	4
Sp	Sprain	捻挫	1	0	2	0	3
Ta	Toothache, swell gum	歯痛、歯肉炎	8	3	6	4	13
Tc	Tuberculosis	結核	0	0	1	0	1
Te	Extraction of teeth	抜歯	0	0	1	0	1
Th	Throat problem	のど不調	1	1	0	0	2
Tn	Tonic	強壯剤	4	0	1	0	4
Tt	Tetanus	破傷風	1	0	0	0	1
Ul	Ulcer	潰瘍	0	0	0	1	1
Ur	Urine sensation, Urinary trouble	尿感覚、排尿障害	2	0	0	0	2
V	Vomitting	嘔吐	4	0	2	0	4
W	Wound healing, Blood clotting	傷薬・血液凝固	14	11	18	10	40

表3 アルナーチャル・プラデーシュ州の4つの民族によって利用される野生食用・薬用植物の種数。

民族名	アディ族	アパタニ族	ニシ族	メンバ族	全体
食用または薬用の植物	128	116	222	77	375
食用の植物	71	78	140	57	249
薬用の植物	90	61	119	34	220
食用かつ薬用の植物	33	23	37	14	79

用植物の中では、オオバコエンドロ (*Eryngium foetidum*)、ドクダミ (*Houttuynia cordata*)、サンショウの仲間 (*Zanthoxylum* spp.)、クサギの仲間 (*Clerodendrum colebrookianum*)、クワレシダ (*Diplazium esculentum*) が野菜として、キイチゴの仲間 (*Rubus* spp.) が果実として頻繁に利用さ

れていた (付表)。4つの民族のうちアパタニ族だけが植物から塩の代替物を作り、その材料として10種類の植物が利用されていた (表1)。

薬用植物の中では胃痛に用いる種が最も多く46種、ついで傷薬・血液凝固を目的とする種が40種、赤痢・血便が39種、皮膚病・発疹・膿瘍

が34種であった(表2)。ツボクサ (*Centella asiatica*) は胃痛に、キバナオランダセンニチ (*Acmella paniculata*) は歯痛や歯肉炎、カッコウアザミ (*Ageratum conyzoides*) とツルギクの仲間 (*Mikania micrantha*) は傷薬・血液凝固、オウレンの仲間 (*Coptis teeta*) は胃痛と発熱に、4つの民族で共通して用いられていた(付表)。

民族ごとにみると、ニシ族によって利用される植物の種数が最も多かった(表3)。アディ族では薬用として利用される植物の種数が食用植物よりも多かったが、他の3つの民族では食用とする植物の種数の方が多かった(表3)。薬用植物のうち、アディ族では胃痛に用いる薬用植物が20種で最も多く、次いで下痢(18種)と赤痢・血便(18種)、アパタニ族では、胃痛(14種)、皮膚病・発疹・膿瘍(13種)、傷薬・血液凝固(11種)、ニシ族では胃痛(26種)、赤痢・血便(21種)と皮膚病・発疹・膿瘍(21種)、メンバ族では傷薬・血液凝固(10種)、胃痛(6種)、歯痛・歯肉炎(4種)、の順であった(表2)。

考察

アルナーチャルの4つの民族によって利用される375種の野生食用・薬用植物の多くは、人里に生育する身近な植物である。そしてオオバコエンドロやドクダミなどのように、日常的に食用とされる野生植物が同時に薬用としても利用されることから、野生植物の日常的な摂取が住民の健康維持に寄与していると推察された。

重要な薬用植物の中には、トリカブトの仲間 (*Aconitum* spp.) やオウレンの仲間のように、高地のみに生育する種がある(図2)。低地住民がこれらの薬用植物を利用する場合、高地住民と物々交換または売買によって入手するか¹⁷⁾、何日間もかけて遠くの山に根を採集に行く¹⁸⁾。

アルナーチャルの食用植物利用において、アパタニ族による植物の灰を用いた塩作りは独特である(表1)。アルナーチャルのような内陸部ではかつて、遠い海岸地方から運ばれた塩は大変貴重で、お金の代わりになった。チベット産の岩塩もヒマラヤ山脈を越えて運ばれてきたが、やはり高価だった¹⁹⁾。しかしチベットの岩塩にはヨウ素が含まれていないため、甲状腺腫が多発した¹⁷⁾。その点、アパタニ族の作る塩の代替物にはヨウ素が

含まれるため、重宝された⁹⁾。

アディ族とニシ族では下痢や赤痢・血便に用いる薬用植物の種数が多かったが、アパタニ族とメンバ族では少なかった(表2)。このことから、標高2000m前後の冷涼な高地では、温暖な低地よりも、下痢や赤痢・血便の症状が少ないことが推察された(図2)。実際に、アルナーチャルの標高1600mから3000mに居住するモンバ族と牧畜民の合計280人を対象とした医学検診の際に、下痢症を訴えたのはわずか3人であった(奥宮、未発表)。一方、同検診により、モンバ族と牧畜民に体の痛み(それぞれ67.6%と81.7%)、頭痛(53.4%と33.7%)と不眠(40.5%と34.1%)の多いことが認められた(奥宮、未発表)が、本稿で分析の対象とした先行研究の結果では、低地住民であるアディ族とニシ族の方がこれらの疾病に効くとされる薬用植物を多く認識していた(表2)。

本稿で分析の対象とした文献は、民族植物学や植物分類学の研究者が行った住民への聞き取り調査に基づいており、医学の専門家による診断がなされていないため、薬効や病名が正確でない可能性がある。そのような欠点は、植物学と医学の研究者が共同調査を行うことで、ある程度克服されると考えられる。アルナーチャルの農山村では、西洋医学の医師による診断と薬の処方には困難な場合が多く、現在でも薬用植物が日常的に利用されている。そのため、身近な薬用植物に関する正確な知見を地域に還元することは、住民の健康維持に寄与すると考えられる。

アルナーチャルの野生食用・薬用植物に関する従来の文献は、住民が利用する植物の種名と利用法の目録が大半である。しかしたとえば、これらの植物の生育環境や個体密度、住民による採集量や摂取頻度などは、植物資源を持続的に利用するために欠かせない情報である。また上記のトリカブトやオウレンの仲間の事例のように、薬用植物の垂直分布を介した低地と高地の住民の関係も興味深い。さらに本稿で述べた薬用植物利用の事例とチベット医学やインドの伝統医学との関連性を分析することも、ヒマラヤ・チベット高地における住民の健康と植物資源との関わりを考察する上で重要だと考えられた。

まとめ

アルナーチャルのアディ族、アパタニ族、ニシ族、メンバ族を対象とした先行研究を総合すると、375種の野生食用・薬用植物の利用が確認された。そのうち約2割が食用と薬用の両方の目的で利用されており、野生植物の食用としての摂取が同時に住民の健康維持に寄与している可能性が推察された。薬用植物では、胃痛、傷薬・血液凝固、赤痢・血便、皮膚病・発疹・膿瘍に用いる種が多かった。アディ族とニシ族では下痢や赤痢・血便に用いる薬用植物の種数が多かったが、アパタニ族とメンバ族では少なかったことから、標高2000 m前後の冷涼な高地では下痢や赤痢・血便の症状が少ないことが推察された。実際、アルナーチャルの高地で行われた医学検診では、下痢症を訴える受診者は非常に少なかった。今後、医学と植物学の研究者の共同研究により、身近な野生食用・薬用植物の摂取とその効用を分析することは、アルナーチャルの住民の健康維持をはかる上で重要だと考えられた。

謝辞

この調査は、総合地球環境学研究所プロジェクト「人の生老病死と高所環境—『高地文明』における医学生理・生態・文化的適応」（代表・奥宮清人准教授）において行われた。またアルナーチャル・プラデーシュ州では Mr. Tsering Wange, Mr. Passang Tsering, Mr. C. K. Rai, Mr. Hage Komo をはじめとする皆様のご厚意により調査が可能となった。ここに記してお礼申し上げます。

参考文献

- 1) 中尾佐助. 1966. 『栽培植物と農耕の起源』. 岩波文庫.
- 2) 佐々木高明. 2007. 『照葉樹林文化とは何か』. 中央公論新社.
- 3) Hedge, S. N. (ed.) 2003. *Arunachal Pradesh State Biodiversity Strategy and Action Plan*. State Forest Research Institute, Department of Environment & Forests, Itanagar.
- 4) Kagyung, R., Gajurel, P. R., Rethy, P. and Singh, B. 2010. Ethnomedicinal plants used for gastrointestinal diseases by Adi tribes of Dehang-Debang Biosphere Reserve in Arunachal Pradesh. *Indian Journal of Traditional Knowledge* 9: 496-501.
- 5) Sundriyal, R. C., Upreti, T. C. and Varuni, R. 2002. Bamboo and cane resource utilization and conservation in the Apatani plateau, Arunachal Pradesh, India: implications for management. *Journal of Bamboo and Rattan* 1: 205-246.
- 6) Sharma, T. P. and Borthakur, S. K. 2008. Ethnobotanical observations on bamboos among Adi tribes in Arunachal Pradesh. *Indian Journal of Traditional Knowledge* 7: 594-597.
- 7) Tag, H., Murtem, G., Das, A. K. and Singh, R. K. 2008. Diversity and distribution of ethnomedicinal plants used by the Adi tribe in East Siang District of Arunachal Pradesh, India. *Pleione* 2: 123-136.
- 8) Srivastava, R. C. and Adi community. 2009. Traditional knowledge of Adi tribe of Arunachal Pradesh on plants. *Indian Journal of Traditional Knowledge* 8: 146-153.
- 9) Gangwar, A. K. and Ramakrichnan, P. S. 1990. Ethnobotanical notes on some tribes of Arunachal Pradesh, northeastern India. *Economic Botany* 44: 94-105.
- 10) Rethy, P., Singh, B., Kagyung, R. and Gajurel, P. R. 2010. Ethnobotanical studies of Dehang – Debang Biosphere Reserve of Arunachal Pradesh with special reference to Memba tribe. *Indian Journal of Traditional Knowledge* 9: 61-67.
- 11) Srivastava, R. C. and Nyishi community. 2010. Traditional knowledge of Nyishi (Daffla) tribe of Arunachal Pradesh. *Indian Journal of Traditional Knowledge* 9: 26-37.
- 12) Srivastava, R. C., Singh, R. K., Apatani community and Mukherjee, T. K. 2010. Indigenous biodiversity of Apatani plateau: Learning on biocultural knowledge of Apatani tribe of Arunachal Pradesh for sustainable livelihoods. *Indian Journal of Traditional Knowledge* 9: 432-442.
- 13) Srivastava, R. C., Tanyang, B, Nyishi community, Singh, R. K. and Mukherjee, T. K. 2010. Notes on a new herb traditionally used by Nyishi tribe of Arunachal Pradesh. *Indian Journal of Traditional Knowledge* 8: 649.

- 14) Singh, K. S. (ed.) 1995. *People of India: Arunachal Pradesh Volume 14*. Seagull Books, Calcutta.
- 15) Behera, M. D. and Kushwaha, S. P. S. 2007. An analysis of altitudinal behavior of tree species in Subansiri district, Eastern Himalaya. *Biodiversity and Conservation* 16: 1851-1865.
- 16) 小坂康之・安藤和雄. 2008. 「インド北東部における植生研究の動向と今後の課題」『ヒマラヤ学誌』 9: 42-47.
- 17) Elwin, V. 1957. *A Philosophy for NEFA*. Directorate of Research, Government of Arunachal Pradesh, Itanagar.
- 18) 竹田晋也. 2007. 「アルナーチャル・プラデーシュの生業景観」『ヒマラヤ学誌』 8: 77-88.
- 19) Choudhury, S. D. (ed.) 1981. *Arunachal Pradesh District Gazetteers – Subansiri District*. Government of Arunachal Pradesh, Itanagar, India.

Summary

Characteristics of Wild Edible and Medicinal Plant use in Arunachal Pradesh, India

Yasuyuki Kosaka¹⁾, Bhaskar Saikia²⁾, Tasong Mingki²⁾, Hui Tag²⁾, Tomo Riba³⁾, Kazuo Ando⁴⁾, Kiyohito Okumiya¹⁾

1) Research Institute for Humanity and Nature

2) Department of Botany, Rajiv Gandhi University

3) Department of Geography, Rajiv Gandhi University

4) Center for Southeast Asian Studies, Kyoto University

According to the preceding studies on the wild edible and medicinal plants used by Adi, Apatani, Nyishi and Memba communities in Arunachal Pradesh, a total of 375 species belonging to 234 genera and 95 families were listed. Among them, edible plants were 249 species, medicinal plants were 220 species, and the plants both for edible and medicinal use were 79 species. The result suggested that daily consumption of wild edible plants would contribute to maintain a good health. The medicinal plants were applied to a variety of 79 types of symptom. The number of the medicinal plants for stomachache was highest, followed by the ones for wound, for dysentery and for skin disease. The number of the medicinal plants for diarrhea and dysentery was smaller in Apatani and Memba than Adi and Nyishi community, which implied that these diseases would be less common in the cool highland. The medical survey conducted in the highland of Arunachal Pradesh also showed the small number of the patients of diarrhea and dysentery. It is important to analyze the consumption of wild edible and medicinal plants and its effect for considering the good health of local residents.

インド、アルナーチャル・プラデーシュ州における野生食用・薬用植物利用の特徴（小坂康之ほか）

付表 アルナーチャル・プラデーシュ州の4つの民族によって利用される野生食用・薬用植物一覧。

種名	科名	和名	アディ族	アバタニ族	ニシ族	メンバ族
種子植物						
<i>Andrographis paniculata</i>	Acanthaceae	(キツネノマゴ科)	Ant, Cs		Ant, Dy	Ant, Ch, Dir, MI
<i>Justicia adhatoda</i>	Acanthaceae	キツネノマゴ属			Cg, Cl, Br	Fd
<i>Peristrophe roxburghiana</i>	Acanthaceae	ハグロソウ属		Fd, Fdi		
<i>Phlogacanthus curviflorus</i>	Acanthaceae	(キツネノマゴ科)			Cs, Sa	
<i>Phlogacanthus thyriformis</i>	Acanthaceae	(キツネノマゴ科)				Pp
<i>Phlogacanthus tubiflorus</i>	Acanthaceae	(キツネノマゴ科)			Fd, Cg	
<i>Strobilanthes</i> sp.	Acanthaceae	イセハナビ属		Fd, Fdi		
<i>Acorus calamus</i>	Acoraceae	ショウブ		DI, W		Nt
<i>Amaranthus hybridus</i>	Amaranthaceae	ホナガアオゲイトウ				Fd
<i>Amaranthus viridis</i>	Amaranthaceae	ホナガイヌビユ			Fd	Fd
<i>Cyathula prostrata</i>	Amaranthaceae	(ヒユ科)		Fdi		
<i>Mangifera sylvatica</i>	Anacardiaceae	マンゴー属				Fd
<i>Pegia nitida</i>	Anacardiaceae	(ウルシ科)				
<i>Rhus chinensis</i>	Anacardiaceae	ウルシ属	Sa	Fd, Bdp, Dy		
<i>Tapirira hirsuta</i>	Anacardiaceae	(ウルシ科)			Fd	
<i>Miliusa globosa</i>	Annonaceae	(バンレイシ科)			Ha	
<i>Centella asiatica</i>	Apiaceae	ツボクサ	Sa	Fd, Cs, La, Sa	Fd, Cs, La, Sa	Sa
<i>Eryngium foetidum</i>	Apiaceae	オオバコエンドロ	Fd, Ha, Md	Fd, Ha, Md	Fd, Ha, Md	Fd
<i>Hydrocotyle javanica</i>	Apiaceae	チドメグサ属			Hr, Sa	
<i>Hydrocotyle podantha</i>	Apiaceae	チドメグサ属			Hr, Sa	
<i>Hydrocotyle sibthorpioides</i>	Apiaceae	チドメグサ属			Hr, Sa	
<i>Oenanthe javanica</i>	Apiaceae	セリ		Fd, Fdi	Fd	
<i>Alstonia scholaris</i>	Apocynaceae	(キョウチクトウ科)			Ha, Hb, Hr, Sa, Sd	
<i>Colocasia affinis</i>	Araceae	サトイモ属			Cg, Fv, Sd, Tc	
<i>Colocasia esculenta</i>	Araceae	サトイモ				Fd
<i>Pothos chinensis</i>	Araceae	ポトス属			Bdl	
<i>Pothos scandens</i>	Araceae	ポトス属	Bnf, W		Cs	Bnf
<i>Rhaphidophora peepla</i>	Araceae	ポトス属	Rm			
<i>Brassaiopsis glomerulata</i>	Araliaceae	(ウコギ科)			Fd, Cg, Dir, Sa, Sd, Ta, W	
<i>Schefflera pauciflora</i>	Araliaceae	フカノキ属		Fd		
<i>Schefflera venulosa</i>	Araliaceae	フカノキ属			Bdp	
<i>Calamus erectus</i>	Arecaceae	トウ属	Id		Fd	Fd, Id, Sa
<i>Calamus floribundus</i>	Arecaceae	トウ属		Fd	Fd	
<i>Calamus rotang</i>	Arecaceae	トウ属	Fd, Ant			Fd, Fv
<i>Metroxylon sagu</i>	Arecaceae	サゴヤシ			Fd	
<i>Wallichia disticha</i>	Arecaceae	(ヤシ科)				Fds
<i>Aristolochia saccata</i>	Aristolochiaceae	ウマノスズクサ属			Fd	
<i>Acmella oleracea</i>	Asteraceae	(キク科)	Fd, Ar, Cs, Ta			
<i>Acmella paniculata</i>	Asteraceae	キバナオランダセンニ チ	Ta	Ant, Cs, Ta	Ant, Cg, Ta	Fd, Ta
<i>Ageratum conyzoides</i>	Asteraceae	カッコウアザミ	Bdp, Cj, Dir, Dy, W	Bdp, Cj, Dy, W	Bdp, Cj, Dy, W	W

種名	科名	和名	アデイ族	アバタニ族	ニシ族	メンバ族
<i>Artemisia indica</i>	Asteraceae	ヨモギ属	As, Bdp, Er, Ha, Nk, Sd	As, Bdp, Er, Ha, Sd,	Fd, As, Bdp, Er, Ha, Nk, Sd, W	
<i>Artemisia nilagirica</i>	Asteraceae	ヨモギ属				Nb, W
<i>Artemisia parviflora</i>	Asteraceae	ヨモギ属			Bdp	
<i>Bidens pilosa</i>	Asteraceae	コセンダングサ	As, Ea, Hb, Jn, Sl, Sn			
<i>Bidens tripartita</i>	Asteraceae	センダングサ属			Fd	
<i>Blumea fistulosa</i>	Asteraceae	ツルハグマ属	Fd, Dir			
<i>Chromolaena odorata</i>	Asteraceae	ヒマワリヒヨドリ	Cg, Ha, Sd, W			
<i>Cirsium interpositum</i>	Asteraceae	アザミ属			Fd	
<i>Cirsium</i> sp.	Asteraceae	アザミ属		Fdi		
<i>Conyza bonariensis</i>	Asteraceae	アザミ属	Sn	Sn		
<i>Crassocephalum crepidioides</i>	Asteraceae	ベニバナボロギク	Fd, W	Fd, W		
<i>Cyanthillium cinereum</i>	Asteraceae	ムラサキムカシヨモギ		Fdi		
<i>Dichrocephala bicolor</i>	Asteraceae	ブクリョウサイ属		Fd		
<i>Dichrocephala latifolia</i>	Asteraceae	ブクリョウサイ属		Fd		
<i>Eclipta prostrata</i>	Asteraceae	タカサブロウ		Dy, Sa, W		
<i>Emilia sonchifolia</i>	Asteraceae	ウスベニニガナ			Fd	
<i>Galinsoga parviflora</i>	Asteraceae	コゴメギク			Fd	
<i>Gamochaeta purpurea</i>	Asteraceae	ウスベニチチコグサ属			Fd	
<i>Gerbera piloselloides</i>	Asteraceae	ガーベラ属	Rh			
<i>Gynura crepidioides</i>	Asteraceae	ギヌラ属	Cs, Dp, Ha, Sl			
<i>Gynura cusimbua</i>	Asteraceae	ギヌラ属		Ant		
<i>Gynura nepalensis</i>	Asteraceae	ギヌラ属		Fd, Fdi		
<i>Mikania micrantha</i>	Asteraceae	ツルギク属	Dir, Dy, Sa, W	Cj, Er, Gc, Sb, Sd, W	Cj, Er, Sb, Sd, W	W
<i>Sonchus asper</i>	Asteraceae	ノゲン属		Fdi		
<i>Sonchus brachyotus</i>	Asteraceae	ノゲン属		Fd, Sa		
<i>Sonchus oleraceus</i>	Asteraceae	ノゲン属		Fd, Sa		
<i>Sonchus wightianus</i>	Asteraceae	ノゲン属		Fdi		
<i>Youngia japonica</i>	Asteraceae	オニタビラコ	Fd		Fd	
<i>Impatiens latifolia</i>	Balsamiaceae	ツリフネソウ属		Fd	Fv, Ha	
<i>Impatiens racemosa</i>	Balsamiaceae	ツリフネソウ属			Fd	
<i>Impatiens scabrada</i>	Balsamiaceae	ツリフネソウ属			Fd	
<i>Impatiens</i> sp.	Balsamiaceae	ツリフネソウ属			Fd	
<i>Impatiens tripetala</i>	Balsamiaceae	ツリフネソウ属			La	
<i>Begonia griffithiana</i>	Begoniaceae	シュウカイドウ属	Fd			
<i>Begonia josephii</i>	Begoniaceae	シュウカイドウ属	Dy			Fd
<i>Begonia magnifolia</i>	Begoniaceae	シュウカイドウ属			Bdp	
<i>Begonia obversa</i>	Begoniaceae	シュウカイドウ属		Fd	Fd, Cl, Fv, Ml, Sd	
<i>Begonia palmata</i>	Begoniaceae	シュウカイドウ属			Fd, Cg, Cl	
<i>Begonia roxburghii</i>	Begoniaceae	シュウカイドウ属	Fl, Id, Sa, Ta	Fd, Cl, Fv, Id, Ml, Sd	Fd, Cl, Fv, Id, Ml, Sd	
<i>Berberis napaulensis</i>	Berberidaceae	メギ属		Fd, Cj, Sd	Fd	
<i>Berberis wallichiana</i>	Berberidaceae	メギ属		Fd, Bdp, W	Bdp, W	
<i>Corylus avellana</i>	Betulaceae	ハシバミ属			Dy	
<i>Stereospermum colais</i>	Bignoniaceae	(ノウゼンカズラ科)			Sp	
<i>Cordia dichotoma</i>	Boraginaceae	カキバチシャノキ属			Fd	

インド、アルナーチャル・プラデーシュ州における野生食用・薬用植物利用の特徴（小坂康之ほか）

種名	科名	和名	アディ族	アバタニ族	ニシ族	メンバ族
<i>Brassica napus</i>	Brassicaceae	アブラナ属		Fd		
<i>Cardamine hirsuta</i>	Brassicaceae	タネツケバナ属			Fd	
<i>Canarium strictum</i>	Burseraceae	カンラン属		Cx, Ib	Cx, Ib	Rm
<i>Lobelia zeylanica</i>	Campanulaceae	ミゾカクシ属			Fd	
<i>Cannabis sativa</i>	Canabinaceae	アサ				Ns
<i>Roydsia suaveolens</i>	Capparaceae	(フウチョウソウ科)		Fd		
<i>Stixis suaveolens</i>	Capparaceae	(フウチョウソウ科)	Fd			
<i>Drymaria cordata</i>	Caryophyllaceae	オムナグサ	Sa		Sd, Sn	
<i>Drymaria diandra</i>	Caryophyllaceae	ヤンバルハコベ	Rw, Sa, Sd			
<i>Silene heterophylla</i>	Caryophyllaceae	マンテマ属	Fd	Fd	Fd	
<i>Chenopodium album</i>	Chenopodiaceae	シロザ	Fd, Fdl, Cp, Cs, Id		Fd	
<i>Dysphania ambrosioides</i>	Chenopodiaceae	ケアリタソウ			Fd	
<i>Garcinia kydia</i>	Clusiaceae	フクギ属			Fd	
<i>Garcinia pedunculata</i>	Clusiaceae	フクギ属	Dir, Dy, Fl, Id		Fd, Cg, Dy	Fd, Sa
<i>Termilialia bellirica</i>	Combretaceae	モモタマナ属			Cs, La	
<i>Termilialia chebula</i>	Combretaceae	モモタマナ属		Cg, Sa	Cg, Sa	Sa
<i>Termilialia citrina</i>	Combretaceae	モモタマナ属			Cg, Sa	
<i>Pollia hasskarlii</i>	Commelinaceae	ヤブミョウガ属			Er	
<i>Streptolirion volubile</i>	Commelinaceae	アオイカズラ			Fd	
<i>Ipomoea uniflora</i>	Convolvulaceae	サツマイモ属			Dy	
<i>Costus speciosus</i>	Costaceae	フクジンソウ			Bi, Ib, Sb	Fd, Jn
<i>Gynostemma pentaphyllum</i>	Cucurbitaceae	アマチャヅル属		Ant, Cg, Sa, Th		
<i>Hodgsonia heteroclita</i>	Cucurbitaceae	(ウリ科)				Fd
<i>Indofevillea khasiana</i>	Cucurbitaceae	(ウリ科)			Dy, Fv, Ha, Ml	
<i>Momordica dioica</i>	Cucurbitaceae	ツルレイシ属			Fd	
<i>Solena heterophylla</i>	Cucurbitaceae	(ウリ科)	Fd	Fd, Fv, Ha, Ml, Sd	Fd, Fv, Ha, Ml, Sd	
<i>Solena umbellata</i>	Cucurbitaceae	(ウリ科)			Fd	
<i>Trichosanthes cordata</i>	Cucurbitaceae	カラスウリ属	Fd, Dir, Dy			Fd
<i>Trichosanthes tricuspidata</i>	Cucurbitaceae	カラスウリ属			Dy, Sa	
<i>Cyathea andersonii</i>	Cyatheaceae	ヘゴ属	Fds			
<i>Cyathea gigantea</i>	Cyatheaceae	ヘゴ属			Fd	
<i>Carex cruciata</i>	Cyperaceae	スゲ属			Fd, W	
<i>Carex filicina</i>	Cyperaceae	スゲ属			Fd	
<i>Dillenia indica</i>	Dilleniaceae	ビワモドキ属	Dr, Dy, Id, Ip, Pl, Sa	Fd, Sa	Fd, Sa	
<i>Dioscorea belophylla</i>	Dioscoreaceae	ヤマノイモ属			Fd, Dy, Fv, Ha, Ml	
<i>Dioscorea bulbifera</i>	Dioscoreaceae	ニガカシウ		Bs, Dy	Fd, Bs, Dy	Fd, Fdf
<i>Dioscorea esculenta</i>	Dioscoreaceae	トゲイモ			Fd	
<i>Dioscorea glabra</i>	Dioscoreaceae	ヤマノイモ属			Fd	
<i>Dioscorea hamiltonii</i>	Dioscoreaceae	ヤマノイモ属		Fd	Fd	
<i>Dioscorea pubera</i>	Dioscoreaceae	ヤマノイモ属			Fd	
<i>Elaeagnus infundibularis</i>	Elaeagnaceae	グミ属		Fd		
<i>Elaeagnus latifolia</i>	Elaeagnaceae	グミ属		Fd		
<i>Elaeagnus pyriformis</i>	Elaeagnaceae	グミ属		Fd, Cs		
<i>Balakata baccata</i>	Euphorbiaceae	(トウダイグサ科)	Fd	Fd		
<i>Baliospermum calycinum</i>	Euphorbiaceae	(トウダイグサ科)	Fd			
<i>Baliospermum montanum</i>	Euphorbiaceae	(トウダイグサ科)			Fd	

種名	科名	和名	アデニ族	アバタニ族	ニシ族	メンバ族
<i>Croton laevigatus</i>	Euphorbiaceae	ハズ属			Fd, Id	
<i>Glochidion multiloculare</i>	Euphorbiaceae	カンコノキ属	Fd, Ar, Id, Ccg			
<i>Macaranga denticulata</i>	Euphorbiaceae	オオバギ属	W		W	
<i>Mallotus paniculatus</i>	Euphorbiaceae	アカメガシワ属		Cl, Ea, Fv		
<i>Phyllanthus emblica</i>	Euphorbiaceae	アンマロク		Fd	Fd	
<i>Ricinus communis</i>	Euphorbiaceae	ヒマ	Bdp, Bnf		Ar, Bdp	
<i>Abrus precatorius</i>	Fabaceae	トウアズキ属			Ar	
<i>Atylosia goensis</i>	Fabaceae	(マメ科)			Fd	
<i>Bauhinia variegata</i>	Fabaceae	ハカマカズラ属	Fd	Fd		
<i>Bauhinia wallichii</i>	Fabaceae	ハカマカズラ属			Fd	
<i>Entada gigas</i>	Fabaceae	モダマ属				Fd, Rm
<i>Entada rheedii</i>	Fabaceae	モダマ属		Bnf	Bnf	
<i>Mastersia assamica</i>	Fabaceae	(マメ科)			W	
<i>Mucuna pruriens</i>	Fabaceae	トビカズラ属	Er			
<i>Pueraria peduncularis</i>	Fabaceae	クズ属			Fd	
<i>Pueraria stricta</i>	Fabaceae	クズ属			Fd	
<i>Castanopsis indica</i>	Fagaceae	シイ属				Fd
<i>Castanopsis tribuloides</i>	Fagaceae	シイ属		Cg, Id, Gt		
<i>Casearia vareca</i>	Flacourtiaceae	(イイギリ科)			Ant, Ea	
<i>Gynocardia odorata</i>	Flacourtiaceae	(イイギリ科)	Cp, Gr, Sd, W		Te	
<i>Boea multiflora</i>	Gesneriaceae	(イワタバコ科)			Fd	
<i>Rhynchoetechum calycinum</i>	Gesneriaceae	ヤマビワソウ属	Fd		Fd	
<i>Aesculus assamica</i>	Hippocastanaceae	トチノキ属	Cs			
<i>Hydrangea aspera</i> ssp. <i>robusta</i>	Hydrangeaceae	アジサイ属	Fd			
<i>Molineria capitulata</i>	Hypoxidaceae	キンバイザサ科		Bdp, W	Fd, W	
<i>Molineria prainiana</i>	Hypoxidaceae	キンバイザサ科		Dp		
<i>Ajuga macrosperma</i>	Lamiaceae	キラソウ属			Fd	
<i>Anisomeles indica</i>	Lamiaceae	(シソ科)		Bdp		
<i>Elsholtzia blanda</i>	Lamiaceae	ナギナタコウジュ属			Deb	
<i>Hyptis suaveolens</i>	Lamiaceae	ニオイニガクサ		Cg, Cl, Sd		
<i>Plectranthus japonicus</i>	Lamiaceae	(シソ科)		W		
<i>Cinnamomum zeylanicum</i>	Lauraceae	ニッケイ属	Fd, V			Fd
<i>Litsea citrata</i>	Lauraceae	ハマビワ属	Fd	Fd		
<i>Litsea cubeba</i>	Lauraceae	ハマビワ属	Fd, Ant, Bnf, Cg, Cl, Dy, Fv, Ha, Sa, Sl	Fd, Cg, Cl, Fd, Ant, Dy, Fv, Ha, Dy, Fv, Ha, Sa, Sl	Sa	
<i>Litsea doshia</i>	Lauraceae	ハマビワ属			Fd	
<i>Litsea foliosa</i>	Lauraceae	ハマビワ属		Fd		
<i>Litsea salicifolia</i>	Lauraceae	ハマビワ属			Fd, Bnf, Sd	
<i>Leea compactiflora</i>	Leeaceae	(リーア科)			Ib, Sb	
<i>Leea indica</i>	Leeaceae	(リーア科)	Bdp			
<i>Allium hookeri</i>	Liliaceae	ネギ属			Cg, Cl, Sd, W	
<i>Campylandra aurantiaca</i>	Liliaceae	(ユリ科)	Ant, Ap, Bdp, Dir, Dy, Fv, Ml, Sa, Tn			
<i>Chlorophytum arundinaceum</i>	Liliaceae	(ユリ科)		Fd		
<i>Lagerstroemia macrocarpa</i>	Lythraceae	サルスベリ属	Dy			
<i>Magnolia champaca</i>	Magnoliaceae	モクレン属		La, Ld		

インド、アルナーチャル・プラデーシュ州における野生食用・薬用植物利用の特徴（小坂康之ほか）

種名	科名	和名	アディ族	アバタニ族	ニシ族	メンバ族
<i>Magnolia hodgsonii</i>	Magnoliaceae	モクレン属			Fd	
<i>Magnolia lanuginosa</i>	Magnoliaceae	モクレン属				Fd
<i>Magnolia oblonga</i>	Magnoliaceae	モクレン属		La, Ld		
<i>Sida acuta</i>	Malvaceae	ホソバキンゴジカ	Fd			
<i>Urena lobata</i>	Malvaceae	オオバボンテンカ			Dy, Hp	
<i>Phrynum pubinerve</i>	Maranthaceae	(クズウコン科)	Cp, Mt			
<i>Melastoma malabathricum</i>	Melastomataceae	ノボタン属	Fd, Dy, Ta, W	Fd	Fd	Dy, Sd, Ta, W
<i>Melastoma</i> sp.	Melastomataceae	ノボタン属				Fd, W
<i>Osbeckia chinensis</i>	Melastomataceae	ヒメノボタン属				Fd
<i>Osbeckia nepalensis</i>	Melastomataceae	ヒメノボタン属	Fd			Fd
<i>Osbeckia nutans</i>	Melastomataceae	ヒメノボタン属	Fd		Fd	
<i>Osbeckia stellata</i>	Melastomataceae	ヒメノボタン属			Fd	
<i>Oxympora paniculata</i>	Melastomataceae	(ノボタン科)	Fd		Fd	
<i>Sonerila maculata</i>	Melastomataceae	(ノボタン科)			Fd	
<i>Azadirachta indica</i>	Meliaceae	インドセンダン			Fd, Sd	
<i>Melia azedarach</i>	Meliaceae	タイワンセンダン		Bs, Sd	Bs, Sd	
<i>Limacia oblonga</i>	Menispermaceae	(ツツラフジ科)	Fd		Fd	
<i>Parabaena sagittata</i>	Menispermaceae	(ツツラフジ科)	Cp, Sd, Th, W			
<i>Stephania glandulifera</i>	Menispermaceae	ハスノハカズラ属	Bdp, Deb, Hd, Ld, Ml, Sa, Sd, Bdp, Cg,		Dy, Fv, Hr, Ml, Sa	
<i>Tinospora cordifolia</i>	Menispermaceae	(ツツラフジ科)	Deb, Dir, Dy, Fv, Hd, Ld, Ur		Ap, Bdp, Dy, Fv, Sa	
<i>Artocarpus heterophyllus</i>	Moraceae	イチジク属				Fd
<i>Ficus auriculata</i>	Moraceae	イチジク属	Fd		Fd	
<i>Ficus cordata</i>	Moraceae	イチジク属			Fd	
<i>Ficus cunia</i>	Moraceae	イチジク属			Fd	
<i>Ficus elastica</i>	Moraceae	イチジク属			Fd	
<i>Ficus hirta</i>	Moraceae	イチジク属			Fd	
<i>Ficus hispida</i>	Moraceae	イチジク属				Fd
<i>Ficus racemosa</i>	Moraceae	イチジク属				Fd
<i>Ficus religiosa</i>	Moraceae	インドボダイジュ				Ul
<i>Ficus squamosa</i>	Moraceae	イチジク属			Pp	
<i>Morus australis</i>	Moraceae	ヤマグワ			Fd	
<i>Morus laevigata</i>	Moraceae	クワ属	Ant, W			
<i>Morus macroura</i>	Moraceae	クワ属				Ant, W
<i>Ensete glaucum</i>	Musaceae	エンセータ属				Fd
<i>Musa acuminata</i>	Musaceae	バショウ属	Fd			
<i>Musa balbisiana</i>	Musaceae	バショウ属			Fd	
<i>Musa paradisiaca</i>	Musaceae	バショウ属	Fd, Dir, Sd	Fd, Sd	Fd, Sd	
<i>Musa velutina</i>	Musaceae	バショウ属		Dy	Dy	Fd
<i>Myrica esculenta</i>	Myricaceae	ヤマモモ属		Fd, Sd		
<i>Maesa indica</i>	Myrsinaceae	イズセンリョウ属		Fd		
<i>Maesa macrophylla</i>	Myrsinaceae	イズセンリョウ属			Fv, Ml	
<i>Maesa montana</i>	Myrsinaceae	イズセンリョウ属			Bdp	
<i>Psidium guajava</i>	Myrtaceae	グアバ	Cs, Dir, Dy		Fd, Dy	Fd, Dy
<i>Oeolgyne pundulata</i>	Orchidaceae	(ラン科)			Bi	
<i>Otochilus porrecta</i>	Orchidaceae	(ラン科)			Bi	
<i>Oxalis corniculata</i>	Oxalidaceae	カタバミ属	Ir	Fd, Ha, La	Fd, Er, W	Fd

種名	科名	和名	アデニ族	アバタニ族	ニシ族	メンバ族
<i>Oxalis debilis</i>	Oxalidaceae	カタバミ属		Fd, La		
			Ceg, Cg,			
<i>Oxalis griffithii</i>	Oxalidaceae	カタバミ属	Dbt, La,			
			Ld			
<i>Pinus roxburghii</i>	Pinaceae	マツ属		Fd		
<i>Pinus wallichiana</i>	Pinaceae	ヒマラヤゴヨウ		Sd	Sd	
<i>Piper brachystachyum</i>	Piperaceae	コショウ属			Cg	
<i>Piper griffithii</i>	Piperaceae	コショウ属			Fd	
<i>Piper longum</i>	Piperaceae	コショウ属				Rm
<i>Piper mullesua</i>	Piperaceae	コショウ属				Fd
<i>Piper nepalense</i>	Piperaceae	コショウ属				Fd
<i>Piper pedicellosum</i>	Piperaceae	コショウ属			Sp	
<i>Piper sylvaticum</i>	Piperaceae	コショウ属	Fd			
<i>Piper thomsonii</i>	Piperaceae	コショウ属		Fd		
<i>Piper trioicum</i>	Piperaceae	コショウ属		Cg	Bdp	
<i>Plantago erosa</i>	Plantaginaceae	オオバコ属	Fd, Cs, Id	Fd, Cs, Id		
<i>Plantago major</i>	Plantaginaceae	オオバコ属			Fd, Dy	W
<i>Bambusa tulda</i>	Poaceae	ホウライチク属	Tt			
<i>Cephalostachium capitatum</i>	Poaceae	(イネ科)		Fd		
<i>Chimonobambusa</i> sp.	Poaceae	カンチク属		Fd		
<i>Coix lacryma-jobi</i>	Poaceae	ジュズダマ			Fd	
<i>Cynodon dactylon</i>	Poaceae	ギョウギシバ			Ha, Me	
<i>Dendrocalamus hamiltonii</i>	Poaceae	(イネ科)	Fd	Fd, Dy	Fd	
<i>Dendrocalamus strictus</i>	Poaceae	(イネ科)	Ar, Ast, Tn			
<i>Erianthus rufipilus</i>	Poaceae	(イネ科)	Fd			
<i>Phyllostachys bambusoides</i>	Poaceae	マダケ		Fd		
<i>Schizostachyum capitatum</i>	Poaceae	(イネ科)	Ant	Ant, Dir, Dy, Sa		
<i>Persicaria chinensis</i>	Polygonaceae	(タデ科)			Fd	
<i>Polygonum chinense</i>	Polygonaceae	ミチヤナギ属	Fd		Fd	
<i>Polygonum hydropiper</i>	Polygonaceae	ミチヤナギ属				Fd
<i>Polygonum molle</i>	Polygonaceae	ミチヤナギ属			Fd	
<i>Polygonum nepalense</i>	Polygonaceae	ミチヤナギ属	Fd	Fd	Fd	
<i>Polygonum perfoliatum</i>	Polygonaceae	ミチヤナギ属			Fd	
<i>Polygonum runcinatum</i>	Polygonaceae	ミチヤナギ属			Fd	
<i>Polygonum virginianum</i>	Polygonaceae	ミチヤナギ属			Fd	
<i>Rumex nepalensis</i>	Polygonaceae	スイバ属			Fd	
<i>Portulaca oleracea</i>	Portulacaceae	スベリヒユ	Fd, Sa	Fd	Fd, Sd	Fd
<i>Aconitum ferox</i>	Ranunculaceae	トリカブト属	Rh, Sb			
<i>Aconitum heterophyllum</i>	Ranunculaceae	トリカブト属				Sb, W
						Cg, Cl,
			Dir, Dy, Fv,	Fv, Ha, Sa,	Fv, Ha, Sa,	Deb, Dy,
<i>Coptis teeta</i>	Ranunculaceae	オウレン属	Ha, Ml, Sa,	Tn	Tn	Fv, Ha, Ml,
			Tn			Sa,
<i>Berchemia floribunda</i>	Rhamnaceae	クマヤナギ属			Fd	
<i>Agrimonia pilosa</i>	Rosaceae	キンミズヒキ属			Fd	
<i>Duchesnea indica</i>	Rosaceae	ヘビイチゴ属		Fd		
<i>Photinia integrifolia</i>	Rosaceae	カナメモチ属		Fd		
<i>Prunus cerasoides</i>	Rosaceae	サクラ属		Fd		
<i>Prunus persica</i>	Rosaceae	サクラ属			Dy, Er, Ib,	
					W	
<i>Prunus rufa</i>	Rosaceae	サクラ属		Fd		
<i>Pyrus pashia</i>	Rosaceae	ナシ属		Fd		

インド、アルナーチャル・プラデーシュ州における野生食用・薬用植物利用の特徴（小坂康之ほか）

種名	科名	和名	アディ族	アバタニ族	ニシ族	メンバ族
<i>Rubus alceifolius</i>	Rosaceae	キイチゴ属			Fd, Cg	
<i>Rubus assamensis</i>	Rosaceae	キイチゴ属			Fd	
<i>Rubus ellipticus</i>	Rosaceae	キイチゴ属		Fd	Fd	Fd
<i>Rubus insignis</i>	Rosaceae	キイチゴ属	Fd	Fd	Fd	
<i>Rubus niveus</i>	Rosaceae	キイチゴ属		Fd	Fd	
<i>Rubus paniculatus</i>	Rosaceae	キイチゴ属	Fd	Fd	Fd	Fd
<i>Rubus rosifolius</i>	Rosaceae	キイチゴ属	Fd	Fd		Fd
<i>Rubus rugosus</i>	Rosaceae	キイチゴ属				Fd
<i>Carlemannia griffithii</i>	Rubiaceae	(アカネ科)			Cg	
<i>Hedyotis scandens</i>	Rubiaceae	フタバムグラ属	Gl, Sa		Cj, Ta	
<i>Ixora acuminata</i>	Rubiaceae	サンタンカ属			Fv, Ha	
<i>Mitracarpus hirtus</i>	Rubiaceae	(アカネ科)			Fd	
<i>Morinda citrifolia</i>	Rubiaceae	ヤエヤマアオキ属			Bdp, Cg	
<i>Mussaenda frondosa</i>	Rubiaceae	コンロンカ属				Fdl, W
<i>Mussaenda roxburghii</i>	Rubiaceae	コンロンカ属	Fd			
<i>Mycetia longifolia</i>	Rubiaceae	(アカネ科)	Fd			
<i>Ophiorrhiza fasciculata</i>	Rubiaceae	サツマイナモリ属				Fd
<i>Ophiorrhiza</i> sp.	Rubiaceae	サツマイナモリ属			Fd	
			Fd, Cp,			
<i>Paederia foetida</i>	Rubiaceae	ヘクソカズラ	Dir, Dy, Fv, Hb, Id, Sa, Sl, W	Fd, Dir, Sa	Fd, Al, Dir, Sa, Sd	Fd
<i>Psychotria denticulata</i>	Rubiaceae	ボチョウジ属			W	
<i>Rubia manjith</i>	Rubiaceae	アカネ属	Cg, Cl, Ha	Cg, Cl, Ha	Cg, Cl, Ha	
<i>Spiradichlis bifida</i>	Rubiaceae	(アカネ科)	Fd			
<i>Citrus aurantium</i>	Rutaceae	ミカン属				Fd
<i>Citrus medica</i>	Rutaceae	ミカン属	Fd		Fd	
<i>Murraya exotica</i>	Rutaceae	ゲッキツ属	Fd	Fd		
<i>Skimmia anquetilia</i>	Rutaceae	(ミカン科)		Sa		
<i>Toddalia asiatica</i>	Rutaceae	サルカケミカン属		Fd	Fd	
<i>Zanthoxylum acanthopodium</i>	Rutaceae	サンショウ属		Fd, Dy, Sa		
<i>Zanthoxylum armatum</i>	Rutaceae	サンショウ属	Fd, Fl	Cg, Cl, Fv, La, Ta	Fd, Sa	Fd
<i>Zanthoxylum hamiltonianum</i>	Rutaceae	サンショウ属			Fd, Cl, Cs	
<i>Zanthoxylum oxyphyllum</i>	Rutaceae	サンショウ属			Fd	
<i>Zanthoxylum rhetsa</i>	Rutaceae	サンショウ属	Fd			
<i>Saurauia armata</i>	Saurauiaceae	タカサゴシラタマ属	Fd, W		Fd, W	
<i>Saurauia punduana</i>	Saurauiaceae	タカサゴシラタマ属			Fd	
<i>Saurauia roxburghii</i>	Saurauiaceae	タカサゴシラタマ属	Fd, Fdl	Fd, Fdl	Fd, Fdl	
<i>Houttuynia cordata</i>	Saururaceae	ドクダミ	Dir, Dy, Id, Jn, Sl, Sn	Fd, Dy, Hd, Jn, La, Sl	Fd, Dy, Jn, La, Sl	Fd, Sa
<i>Scoparia dulcis</i>	Scrophulariaceae	シマカナビキソウ	Dbt, Jn		Dbt, Jn	
<i>Stauranthera grandifolia</i>	Scrophulariaceae	(ゴマノハグサ科)			Bdp, Rh	
<i>Torenia asiatica</i>	Scrophulariaceae	ツルウリクサ属			Cs, La, Sa	
<i>Torenia diffusa</i>	Scrophulariaceae	ツルウリクサ属			Fd, Fv, Ha	
<i>Physalis angulata</i>	Solanaceae	センナリホオズキ			Sa	
<i>Physalis minima</i>	Solanaceae	ホオズキ属	Fd, Sa			
<i>Solanum aculeatissimum</i>	Solanaceae	ナス属				Ta
<i>Solanum myriacanthum</i>	Solanaceae	ナス属		Ta	MI, Ta	
<i>Solanum nigrum</i>	Solanaceae	イヌホオズキ	Fd, Id, Ld, Ld	Fd, Cs, Id, Ld	Fd, Cs, Ld	Fd
<i>Solanum</i> sp.	Solanaceae	ナス属				Fd, Sa
<i>Solanum spirale</i>	Solanaceae	ナス属	Fd, Sa			

種名	科名	和名	アデニ族	アバタニ族	ニシ族	メンバ族
<i>Solanum torvum</i>	Solanaceae	ナス属	Fd, Dir, Ta	Cg	Fd, Ant, Sa, Sd, Ta	Fd, Ta
<i>Solanum viarum</i>	Solanaceae	ナス属	Fd, Dir, Ta			
<i>Solanum violaceum</i>	Solanaceae	ナス属	Fd, Hb, Id, Sa, Sd, Ta	Ant	Fd, Ant, Sa	
<i>Stemona tuberosa</i>	Stemonaceae	(ビヤクブ科)	Bnf, Dir, Rh, Sa			
<i>Abroma augustum</i>	Sterculiaceae	(アオギリ科)	Dy, V		Dy, La, V	W
<i>Pterospermum acerifolium</i>	Sterculiaceae	(アオギリ科)		Bdp	Bdp	
<i>Sterculia hamiltonii</i>	Sterculiaceae	(アオギリ科)			Fd	
<i>Sterculia villosa</i>	Sterculiaceae	(アオギリ科)				Fd
<i>Tacca integrifolia</i>	Taccaceae	(タシロイモ科)	Dir, Dy, Sa, Sd, W		Dir, Dy, Sa, W	
<i>Thunbergia coccinea</i>	Thunbergiaceae	(ツンベルギア科)			Dy, Sa	
<i>Boehmeria glomerulifera</i>	Urticaceae	カラムシ属			Fd	
<i>Boehmeria macrophylla</i>	Urticaceae	カラムシ属				Fd
<i>Debregeasia longifolia</i>	Urticaceae	ヤナギイチゴ属	Fd		Fd	
<i>Dendrocnide sinuata</i>	Urticaceae	(イラクサ科)		Dy, Ur	Bdp, Fv, Ml, Sd, W	
<i>Elatostema dissectum</i>	Urticaceae	ウワバミソウ属		Fd		
<i>Elatostema sessile</i>	Urticaceae	ウワバミソウ属		Fd	Fd	
<i>Elatostema</i> sp.	Urticaceae	ウワバミソウ属	V		V	
<i>Girardinia zeylanica</i>	Urticaceae	(イラクサ科)			Fd	
<i>Pilea bracteosa</i>	Urticaceae	ミズ属	Fd		Fd	
<i>Pouzolzia bennettiana</i>	Urticaceae	オオバヒメマオ属	Fd, Bi, Cp, Cs, Id,			
<i>Pouzolzia hirta</i>	Urticaceae	オオバヒメマオ属	Fd, Li		Fd	
<i>Urtica hirta</i>	Urticaceae	イラクサ属				Fd
<i>Villebrunea frutescens</i>	Urticaceae	(イラクサ科)	Bi, Sd, W			
<i>Callicarpa arborea</i>	Verbenaceae	ムラサキシキブ属	Sb, Sd, Ta		Sb, Sd, Ta	
<i>Callicarpa macrophylla</i>	Verbenaceae	ムラサキシキブ属			Fd	
<i>Clerodendrum colebrookianum</i>	Verbenaceae	クサギ属	Fd, Fv, Hb, Id, Ld		Fd, Cg, Dir, Hb, Sa	Fd, Hb
<i>Clerodendrum japonicum</i>	Verbenaceae	ヒギリ			Fd	
<i>Clerodendrum kaempferi</i>	Verbenaceae	クサギ属	Fd			
<i>Clerodendrum serratum</i>	Verbenaceae	クサギ属			Id	
<i>Vitex negundo</i>	Verbenaceae	ハマゴウ属				Fd
<i>Viola betonicifolia</i>	Violaceae	スマレ属			Fd	
<i>Cissus quadrangularis</i>	Vitaceae	(ブドウ科)			Ea, Me	
<i>Vitis repens</i>	Vitaceae	ブドウ属		Fd	Fd	
<i>Alpinia malaccensis</i>	Zingiberaceae	ハナミョウガ属	Fd, V	Fd		
<i>Amomum aromaticum</i>	Zingiberaceae	(シヨウガ科)			Fd	
<i>Amomum subulatum</i>	Zingiberaceae	(シヨウガ科)	Fd, Cs, Pr, Sd, Ta, W			
<i>Curcuma caesia</i>	Zingiberaceae	ウコン属	Dir, Sa	As, Cg		
<i>Elettaria cardamomum</i>	Zingiberaceae	(シヨウガ科)				Fd
<i>Globba multiflora</i>	Zingiberaceae	(シヨウガ科)			Bdp, W	
<i>Hedychium dekianum</i>	Zingiberaceae	(シヨウガ科)		W		
<i>Hedychium gardnerianum</i>	Zingiberaceae	(シヨウガ科)				Fd
<i>Hedychium gracile</i>	Zingiberaceae	(シヨウガ科)	Rm			
<i>Rhynchanthus longiflorus</i>	Zingiberaceae	(シヨウガ科)			Fd	

インド、アルナーチャル・プラデーシュ州における野生食用・薬用植物利用の特徴（小坂康之ほか）

種名	科名	和名	アディ族	アバタニ族	ニシ族	メンバ族
シダ植物						
<i>Blechnum orientale</i>	Blechnaceae	(シシガシラ科)			W	
<i>Dryopteris sparsa</i>	Dryopteridaceae	(オシダ科)			Fd	
<i>Dicranopteris linearis</i>	Gleicheniaceae	コシダ		Fdi		Fd
<i>Odontosoria chinensis</i>	Lindsaeaceae	(ホングウシダ科)	Bdp, Sp			
<i>Angiopteris evecta</i>	Marattiaceae	(リュウビンタイ科)	Fdf, Dir, Dy		Fd, Dir, Dy	Fds
<i>Coniogramme falcata</i>	Pteridaceae	(イノモトソウ科)			Fd	
<i>Coniogramme fraxinea</i>	Pteridaceae	(イノモトソウ科)			Bi	
<i>Pteridium aquilinum</i>	Pteridaceae	ワラビ				Fd
<i>Selaginella biformis</i>	Selaginellaceae	(イワヒバ科)			Fd	
<i>Selaginella wallichii</i>	Selaginellaceae	(イワヒバ科)	Fd			
<i>Cyclosorus parasiticus</i>	Thelypteridaceae	(ヒメシダ科)	Gu, Rh			
<i>Metathelypteris gracilescens</i>	Thelypteridaceae	(ヒメシダ科)	Fdl, Bdp, Sd, W		Fdl, Bdp, Sd, W	
<i>Pronephrium lakhimpureense</i>	Thelypteridaceae	(ヒメシダ科)	Rm			
<i>Pronephrium nudatum</i>	Thelypteridaceae	(ヒメシダ科)			Fd	
<i>Pseudocyclosorus tyloides</i>	Thelypteridaceae	(ヒメシダ科)	Fdl		Fdl	
<i>Thelypteris glanduligera</i>	Thelypteridaceae	(ヒメシダ科)	Fdl, Bdp			
<i>Trigonospora ciliata</i>	Thelypteridaceae	(ヒメシダ科)			Fd	
<i>Athyrium lanceum</i>	Woodsiaceae	(イワデングダ科)			Fd	
<i>Diplazium esculentum</i>	Woodsiaceae	クワレシダ	Fd, Cs	Fd	Fd	